

第2回 安間川流域委員会

静岡県浜松土木事務所

令和 7 年12月18日

1. 前回流域委員会(R7.3.6)での意見と対応	2
2. 河川及び流域の現状と課題(環境)	7
3. 河川及び流域の現状と課題(治水)	12
4. 河川整備計画(変更)の方向性	15
5. 今後の予定	24

1. 前回流域委員会 (R7.3.6) での意見と対応

2

1-1 前回流域委員会 (R7.3.6) での主な意見と対応 (1)

No.	分類	意見・要望	意見に対する対応
1 寒竹委員	治水計画 (整備順序)	これまで進められてきた整備状況を踏まえ、整備の実現性の観点から、優先順位を設定して順次進めてほしい。	・整備効果の早期発現や事業実現性等の観点から整備の優先順位を検討し、流域全体において早期に治水安全度を向上できるように整備を進めていく。
2 松本委員、 田中委員長	治水計画 (遊水地整備)	既設の安間川遊水地について、完成形への整備を進める必要がある。	
3 田中委員長	治水計画 (河道改修)	万斛堰は、治水上の観点では撤去する必要があると考える。	・現在の管理者である浜松土地改良区に確認した結果、万斛堰については、利用していないとの回答であったため撤去に向けた調整を進めていく。 ・なお、万斛堰については、橋（中郡64号線2号橋）としての利用状況を踏まえた上で、道路管理者である浜松市と今後の橋の方針について協議していく。
4 森田委員	治水計画 (河道改修)	万斛堰は10年使用していないものの、道路として使用しているため、万斛堰は撤去しても道路は残してほしい。	
5 村越委員	治水計画 (河道改修)	万斛堰の管理者と協議をして、利水上支障がないか確認・協議が必要である。	
6 田中委員長	治水計画 (河道改修)	万斛橋が治水上のネックとなっている印象である。下流からの整備にこだわらず、上流の整備を検討してほしい。	・万斛橋上流区間については、下流の河川整備と並行して整備が可能な対策を検討する。【本資料：P.15-23】
7 松本委員	治水計画 (遊水地整備)	万斛橋上流では公園を兼ねた貯水池を早急に整備してほしい。	・変更河川整備計画においては、万斛橋の上流の対策として遊水地や地下放水路を検討しており、治水効果や社会的影響、経済性等を勘案し、対策を選定していく。 【本資料：P.15-23】
8 田中委員長	治水計画 (遊水地整備)	放水路より現実的な治水対策は遊水地・貯水池である。放水路は天竜川まで距離があるので、時間とコストがかかり現実的ではない。	
9 田中委員長	治水計画 (浸水要因)	令和5年6月の洪水による老間地区の浸水要因として、天竜川本川水位との影響を確認するため、天竜川と安間川の流出時間の違いを調べる。	・天竜川と安間川の流出時間については、概ね6～8時間の時差があることを確認した。 【本資料：P.4-5】

1. 前回流域委員会 (R7.3.6) での意見と対応

3

1-1 前回流域委員会 (R7.3.6) での主な意見と対応 (2)

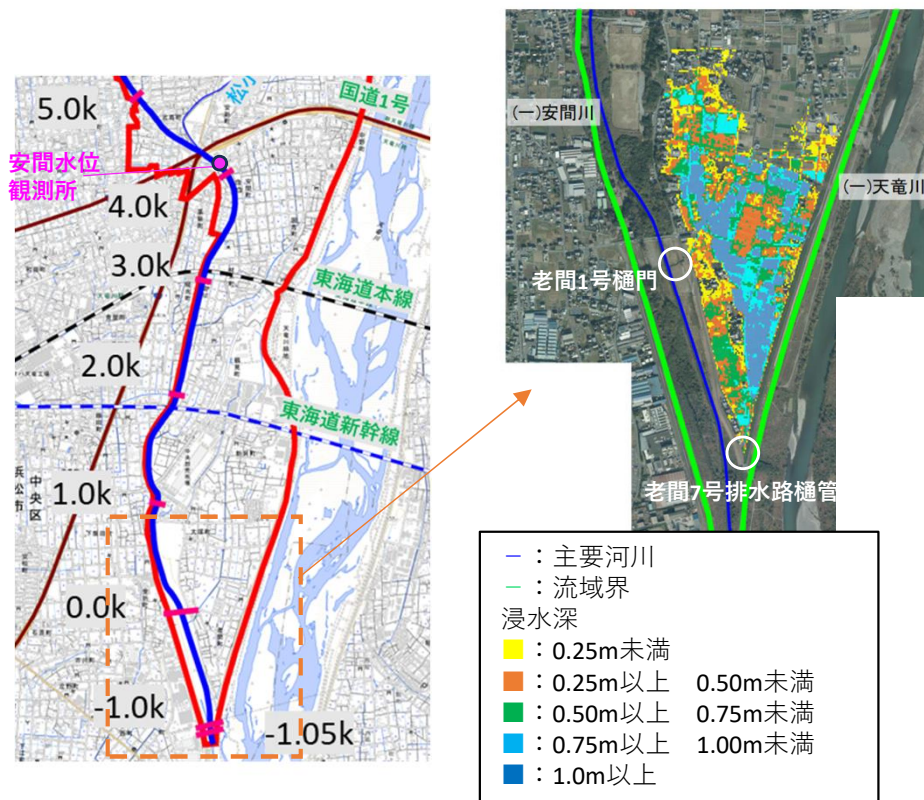
No.	分類	意見・要望	意見に対する対応
10 宮崎委員	河川環境	安間川では、静岡県でもあまり見られない絶滅危惧種の「ミクリ」が生息している。良好な河川環境を維持し、共生できる河川を整備してほしい。	・河川整備を進める上では、上流から天竜川合流点までの区間毎の河川環境調査の結果を踏まえて、ミクリなどの重要種をはじめ多様な動植物が生息・生育できる良好な河川環境の形成を図っていく。 【本資料：P.7-11】
11 鈴木委員	歴史・文化	指定文化財・登録文化財について、「区分」と「種別」等を追記した正確な情報とすること。	・「区分」と「種別」を明記し、正確な情報に修正を行った。 【本資料：P.6】
12 米山委員	その他	安間川公園の地下に貯水池を作ってはどうか。	・安間川の治水対策としては、流域全体の効果を勘案し、上流部で洪水を調整する遊水地や地下放水路を検討した。 【本資料：P.15-23】
13 鈴木委員	その他	計画策定の過程を広報していくことが不足している。将来の街づくりの観点も含め、治水計画の検討過程を住民に伝えることが必要である。	・今後、県民意見募集（パブリックコメント）を実施する予定であり、住民説明会の実施も検討している。
14 田中委員長	その他	住民説明会等の住民の意見を取り入れる場を設けて欲しい。	

1. 前回流域委員会 (R7.3.6) での意見と対応

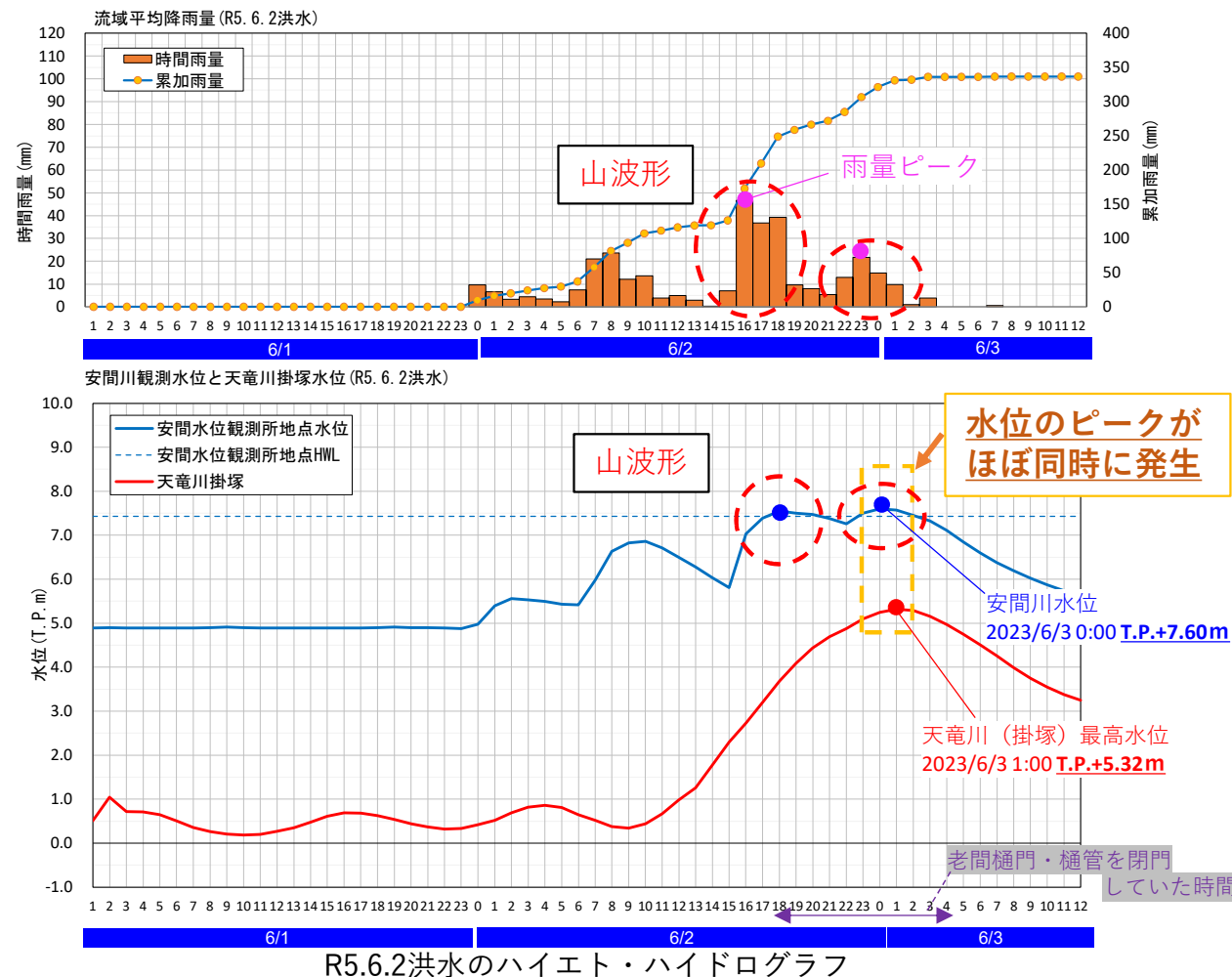
4

意見No.9 天竜川と安間川の流出時間の違いについて

- 令和 5 年 6 月 2 日洪水(台風第 2 号)では、既往最大規模の雨量や浸水被害を発生させた令和 4 年 9 月 23 日洪水(台風第 15 号)でも発生しなかった安間川最下流の左岸域の老間町において、大規模な浸水被害が発生した。
- この原因は、降雨が連続した 2 山波形となっており、安間川の水位も 2 山波形となり、2 山目の最高水位 (T.P.+7.60m) と天竜川 (掛塚水位観測所) の最高水位 (T.P.+5.32m) がほぼ同時に発生したことが挙げられる。
- この結果、安間川の水位が高い状態が続き、排水樋管等からの排水が困難となり、内水浸水が発生した。



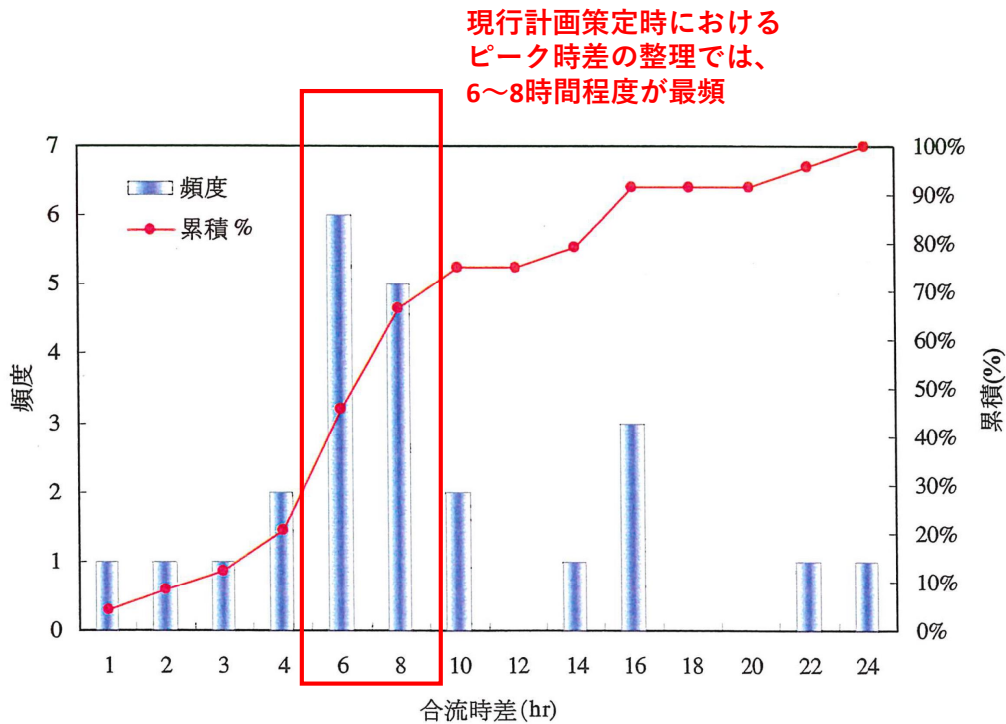
R5.6.2洪水における老間地区の実績浸水深



R5.6.2洪水のハイト・ハイドログラフ

意見No.9 天竜川と安間川の流出時間の違いについて

- 現行計画(H16年)時の検討では、安間川と天竜川の合流点でのピーク時差は概ね 6 ～ 8 時間程度となっている。
- 近年の主要洪水においても、安間川下流端ピーク水位と天竜川の掛塚ピーク水位の時差は概ね 6 ～ 8 時間程度が最頻値となり、安間川のピーク水位と天竜川のピーク水位は 6 ～ 8 時間の時差がある。
- 老間地区において浸水被害の生じた令和 5 年 6 月 2 日洪水(台風第 2 号)は、他の洪水と比較し、降雨継続時間が 28時間と大きく、天竜川の掛塚ピーク水位はT.P.+5.32mと近年で最も水位が高い洪水となっている。



合流時差のヒストグラム (S31-H10)
※現行計画策定時検討

近年洪水の合流時差一覧表 (H16～R5)

年	月	日	浜松観測所 ピーク雨量		安間川下流端 ピーク時間	掛塚ピーク水位		ピーク の時差	ピークの 時差 (推定値)	降雨 継続時間 (hr)
			時	雨量		時	T.P.m			
H16	9	4	5日 1時	56.5	3時52分	5日 21時	1.35	17.13	17時 8 分	3
H25	10	25	25日 21時	41	23時52分	26日 9時	2.58	9.13	9時 8 分	22
H26	10	5	6日 7時	53	9時52分	6日 16時	3.16	6.13	6時 8 分	32
H27	9	8	8日 8時	33.5	10時52分	9日 3時	2.80	16.13	16時 8 分	18
H29	6	21	21日 10時	39	12時52分	21日 18時	1.93	5.13	5時 8 分	12
R1	7	22	22日 21時	26.5	23時52分	22日 24時	1.82	0.13	0時 8 分	7
R1	10	12	12日 13時	23	15時52分	12日 22時	2.81	6.13	6時 8 分	19
R2	7	26	26日 6時	36.5	8時52分	27日 2時	2.94	17.13	17時 8 分	4
R4	7	9	9日 23時	29.5	1時52分	10日 4時	1.04	2.13	2時 8 分	12
R4	9	2	2日 13時	26	15時52分	2日 21時	1.09	5.13	5時 8 分	4
R4	9	23	23日 19時	50.5	21時52分	24日 4時	3.66	6.13	6時 8 分	14
R5	6	2	2日 16時	39.5	18時52分	3日 1時	5.32	6.13	6時 8 分	28

近年洪水においても、
ピーク時差は
6～8時間程度が最頻

掛塚ピーク水位と降雨継続時間が大きい

対象洪水 : 安間水位観測所水位が避難判断水位を超過した洪水

意見No.11 流域の社会状況について

- 安間川流域には、旧東海道や自然堤防を中心に発達した市街地に蛭子森古墳（浜松市指定史跡）、法橋の松（県指定天然記念物）、妙恩寺の古文書（浜松市指定有形文化財）などの史跡・文化財がある。
- 最下流部にはかつての輪中堤の風景を残すとともに、天竜川の治水に尽力した金原明善翁の生家が位置するなど、古くからの天竜川との関わりがある。



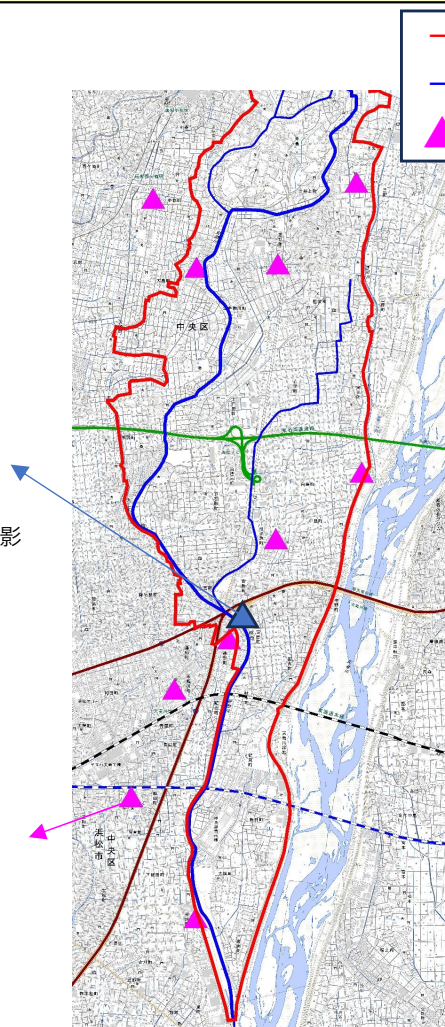
金原明善翁の生家

R4.12撮影



法橋の松

出典：しずおか文化財ナビHPより



主な指定文化財位置

— 流域界
— 安間川
▲ 指定文化財位置

指定文化財・登録文化財について、「区分」と「種別」等を追記した正確な情報としました。

安間川流域の主な指定等文化財

登録	区分	種別	名称
県指定	記念物	天然記念物	法橋の松
市指定	有形	建造物	甘露寺中門
市指定	有形	彫刻	木造薬師如来坐像
市指定	有形	古文書	妙恩寺文書
市指定	記念物	史跡	蛭子森古墳
市認定	有形	歴史資料	浜松領東 境領境石
市認定	有形	歴史資料	安間町会所の幕
市認定	有形	歴史資料	金原明善翁顕彰碑
市認定	有形	歴史資料	福長浅雄建立謝恩の碑
市認定	記念物	史跡	白鳥町子安神社境内

出典：浜松市HP
指定文化財一覧 加筆

出典：浜松市HPより

2. 河川及び流域の現状と課題（環境）

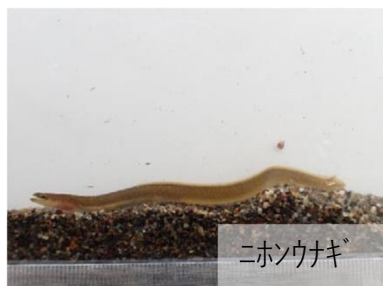
7

2-1 現況の河川環境

- 河川環境調査について、今回の調査は学識経験者とのヒアリング結果を踏まえて、令和7年5月に実施した。
- 調査した結果、植物種ではヒルムシロ属、ミクリ属、カワヂシャの3種、魚類ではニホンウナギ、タモロコ、トウカイコガタスジシマドジョウ、ミナミメダカの4種の重要種が確認された。
- 安間川の植物環境は、湧水に生息するミクリが存在するなど、清流の面影も残っている。

安間川での現地調査結果（R7.5）

調査項目	調査日	確認種数	重要種	特定外来種
植物	令和7年5月7日～9日	77科274種	ヒルムシロ属、ミクリ属、カワヂシャ(3種)	オオフサモ、アレチウリ、オオカワヂシャ、オオキンケイギク(4種)
魚類	令和7年5月22日～23日	7目9科18種	ニホンウナギ、タモロコ、トウカイコガタスジシマドジョウ、ミナミメダカ(4種)	確認なし



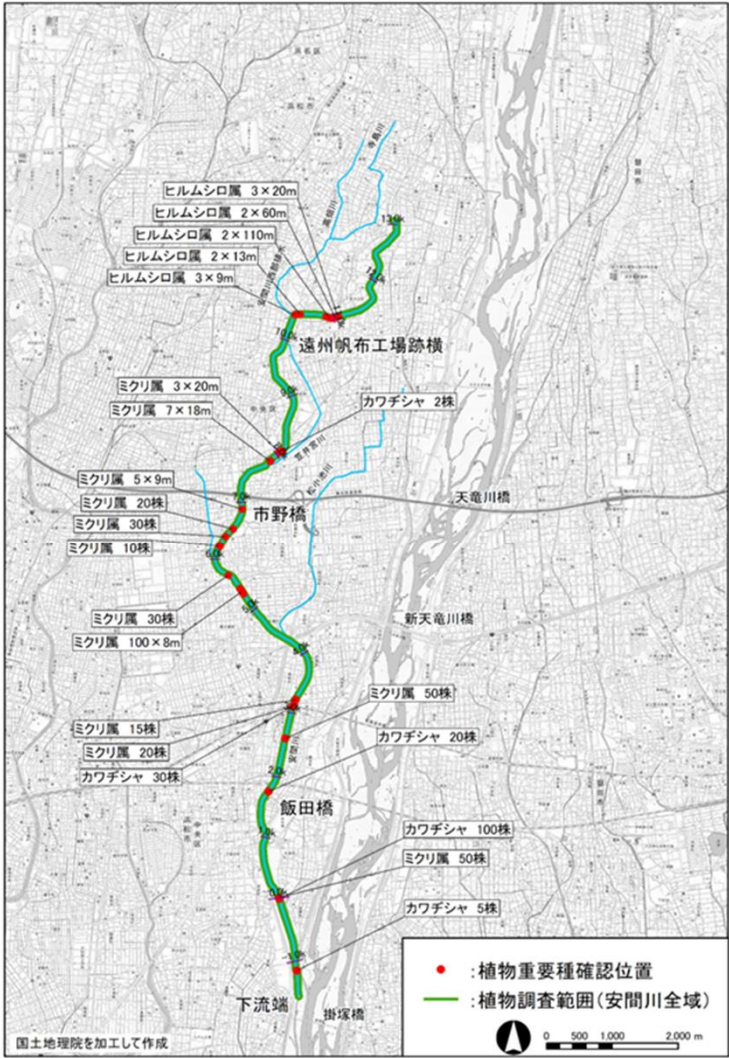
安間川で確認された重要種

2. 河川及び流域の現状と課題（環境）

2-1 現況の河川環境

安間川での現地調査結果（R7.5）

調査項目	調査日	確認種数	重要種	特定外来種
植物	令和7年5月7日～9日	77科274種	ヒルムシロ属、ミクリ属、カワヂシャ(3種)	オオフサモ、アレチウリ、オオカワヂシャ、オオキンケイギク(4種)
魚類	令和7年5月22日～23日	7目9科18種	ニホンウナギ、タモロコ、トウカイコガタスジシマドジョウ、ミナミメダカ(4種)	確認なし



安間川で確認された重要種（植物）



安間川で確認された重要種（魚類）

2-2 現況の河川環境（前回調査（H11））との重要種の比較）

- 植物種では、前回調査と比較し重要種に変化は見られなかったものの、魚類では、以下の2点で変化が確認された。
 - ①：「カワムツ」と「ニシシマドジョウ」が今回の調査で確認されなかった。
 - ②：「トウカイコガタスジシマドジョウ」が今回の調査で確認された。
- ①の要因として、「カワムツ」と「ニシシマドジョウ」は前回調査では確認個体数1個体と少なく、本種の安間川の生息密度が少なく、今回調査で確認されなかったと考えられる。
- ②の要因として、前回調査で確認できなかった「トウカイコガタスジシマドジョウ」が数多く確認されたが、生物の生息に適した河川環境に変化したものと考えられる。

前回調査との比較（重要種：植物）

項目	重要種
前回の調査のみの確認種	なし
今回調査のみの確認種	なし

前回調査との比較（重要種：魚類）

項目	重要種
前回の調査のみの確認種	カワムツ ニシシマドジョウ
今回調査のみの確認種	トウカイコガタスジシマドジョウ

砂底、砂泥底で135体を確認

2. 河川及び流域の現状と課題（環境）

10

2-3 河川環境の対応方針（案）

- 河川整備を進める上では、上流から天竜川合流点までの区間毎に河川環境調査の結果を踏まえて、多様な動植物が生息・生育できる良好な河川環境の形成を図っていく。

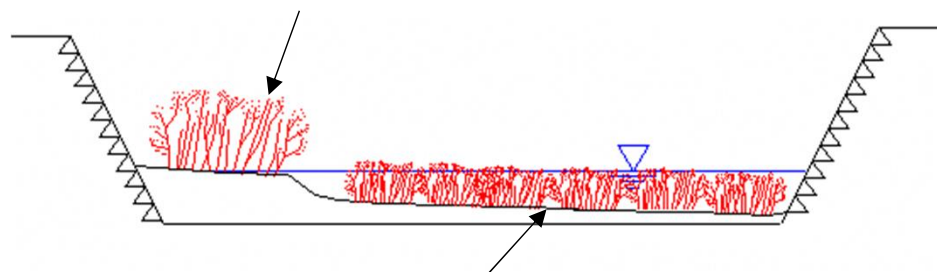
区間	河川環境への対応方針(案)
上流部 (7.0k～13.1k)	<ul style="list-style-type: none">植物重要種（ヒルムシロ属、ミクリ属）の現生育地の消滅に注意する多様な魚類の生息場の保全・創出を図る河床を砂底等の自然な状態とし、底生魚等の生息場創出を図る
中流部 (4.3k～7.0k)	<ul style="list-style-type: none">植物重要種（ミクリ属）の現生育地の消滅に注意する多様な魚類の生息場の保全・創出を図る河床を砂底等の自然な状態とし、底生魚等の生息場創出を図る
下流部 (1.1k～4.3k)	<ul style="list-style-type: none">多様な動植物の生息・生育場の保全・創出を図る
天竜川合流部 (-1.05k～1.1k)	<ul style="list-style-type: none">多様な魚類の生息場の保全・創出を図る水際植生の保全を図る
特定外来生物 (全域)	<ul style="list-style-type: none">在来種への影響が懸念される特定外来生物については、関係機関と連携し、外来生物被害予防3原則（入れない・捨てない・拡げない）の普及を図る

2-4 河川環境に配慮した工事の取り組み事例

- ・ 安間川の治水対策として、重要種であるミクリに配慮した河川内の伐採、堆積土砂の撤去を実施した。
- ・ 工事の実施にあたり、有識者と現地調査を行い、ミクリの植生状況等を確認した上で、施工方法を助言いただき、工事を実施した。

伐採

- ・ 草丈の高い植物については、水面下で伐採



- ・ 水面下の植物は河床付近で伐採
- ・ 除根は行わない



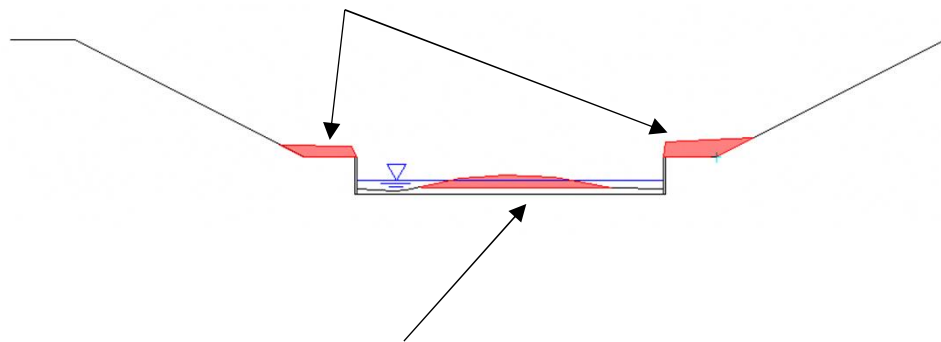
伐採状況



伐採状況

土砂撤去

- ・ 高水敷に堆積した土砂の撤去



- ・ 一部低水路に堆積した土砂の撤去



土砂堆積状況



施工状況

3. 河川及び流域の現状と課題(治水)

3-1 既往の浸水被害

- 安間川では、昭和 49 年 7 月洪水(七夕洪水)、昭和 50 年 10 月洪水、平成 10 年 9 月洪水、平成 27 年 9 月洪水、令和 4 年 9 月 2 日洪水、令和 4 年 9 月 23 日洪水(台風第15 号)、令和 5 年 6 月 2 日洪水(台風第 2 号)など、過去に多くの浸水被害を受けている。
- 浸水被害は東名高速道路上流域に位置する長上地区、宮川排水路周辺と浜松環状線上流域の笠井・寺島地区に集中している。
- 主な浸水原因は、大雨により川の水位の上昇や支川・排水路の流下能力不足により排水不良となり、「内水氾濫」が発生していることによるものである。

安間川流域における代表的な浸水被害

No	洪水名			浸水原因	家屋被害数量 ※1			流域平均 2時間雨量※2	
	西暦	和暦	月日		床上	床下	合計	雨量	確率規模 ※3
①	1974	S49	7月7日	内水	1	160	161	60.0	1/2
②	1975	S50	10月7日	内水 外水	25	756	781	124.5	1/100以上
③	1982	S57	11月29日	内水	0	279	279	90.0	1/11
④	1990	H2	9月29日	内水	0	47	47	93.0	1/14
⑤	1998	H10	9月23日	内水	21	107	128	90.9	1/10
⑥	2013	H25	10月25日	内水	0	1	1	67.0	1/3
⑦	2015	H27	9月8日	内水 万斛上流外水	5	21	26	64.5	1/2
⑧	2022	R4	9月2日	内水 外水	19	27	46	137.5	1/100以上
⑨	2022	R4	9月23日	内水 外水	96	315	411	135.4	1/100以上
⑩	2023	R5	6月2日	内水 万斛上流外水	7	7	14	83.4	1/7

※1:「天竜川水系安間川整備計画(H16.4)」と浜松市調べ
※2:基準地点安間までの洪水到達時間100分に相当
※3:「降雨の確率(平成8年度改訂版)静岡県」からの推定値



3. 河川及び流域の現状と課題(治水)

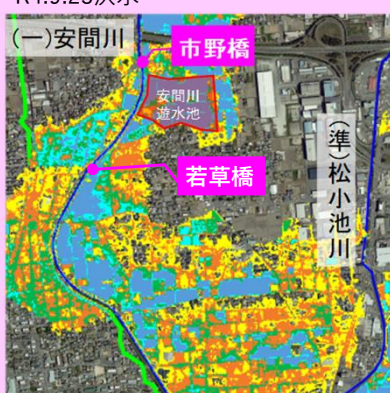
3-2 浸水被害の多い地域

- 長上地区における平成 27 年 9 月洪水、令和 4 年 9 月 23 日洪水(台風第15 号)の浸水被害の要因は、本川の水位が高くなることで排水路からの排水が困難になることや、橋梁箇所での水位上昇が要因として考えられる。
- 宮川排水路周辺における令和 4 年 9 月 23 日洪水(台風第15 号)の浸水被害の要因は、本川の水位の上昇や支川・排水路の流下能力不足により排水が困難になることが要因として考えられる。
- 笠井・寺島地区における平成 27 年 9 月洪水、令和 4 年 9 月 23 日洪水(台風第15 号)の浸水被害の要因は、狭窄部である万斛橋での水位の堰上げや、万斛橋上流の流下能力不足により溢水が生じたと考えられる。

H27.9洪水

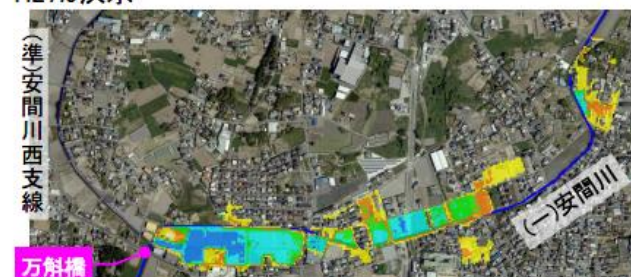


R4.9.23洪水



長上地区

H27.9洪水

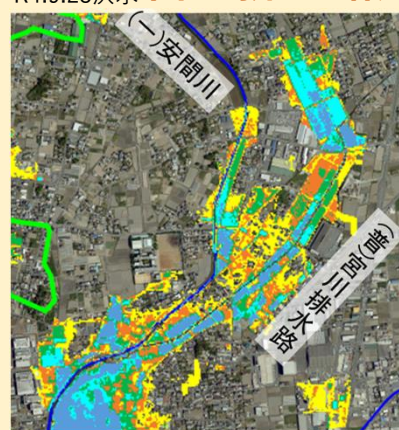


笠井・寺島地区

R4.9.23洪水



R4.9.23洪水



宮川排水路周辺

凡例

- : 主要河川
- : 流域界
- 浸水深
- 0.25m未満
- 0.25m以上 0.50m未満
- 0.50m以上 0.75m未満
- 0.75m以上 1.00m未満
- 1.00m以上

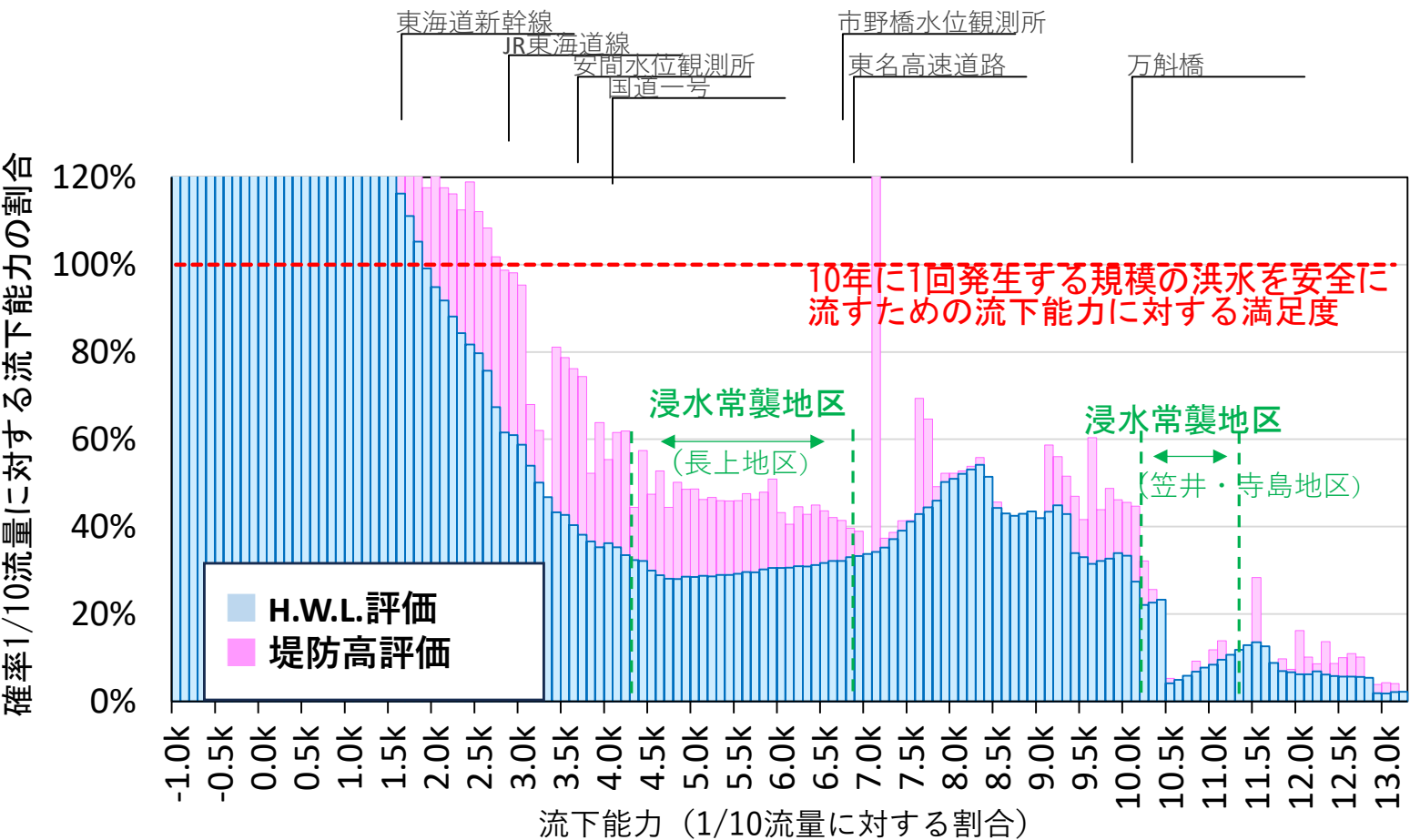


安間川流域における
浸水常襲地域

3. 河川及び流域の現状と課題 (治水)

3-3 現況流下能力

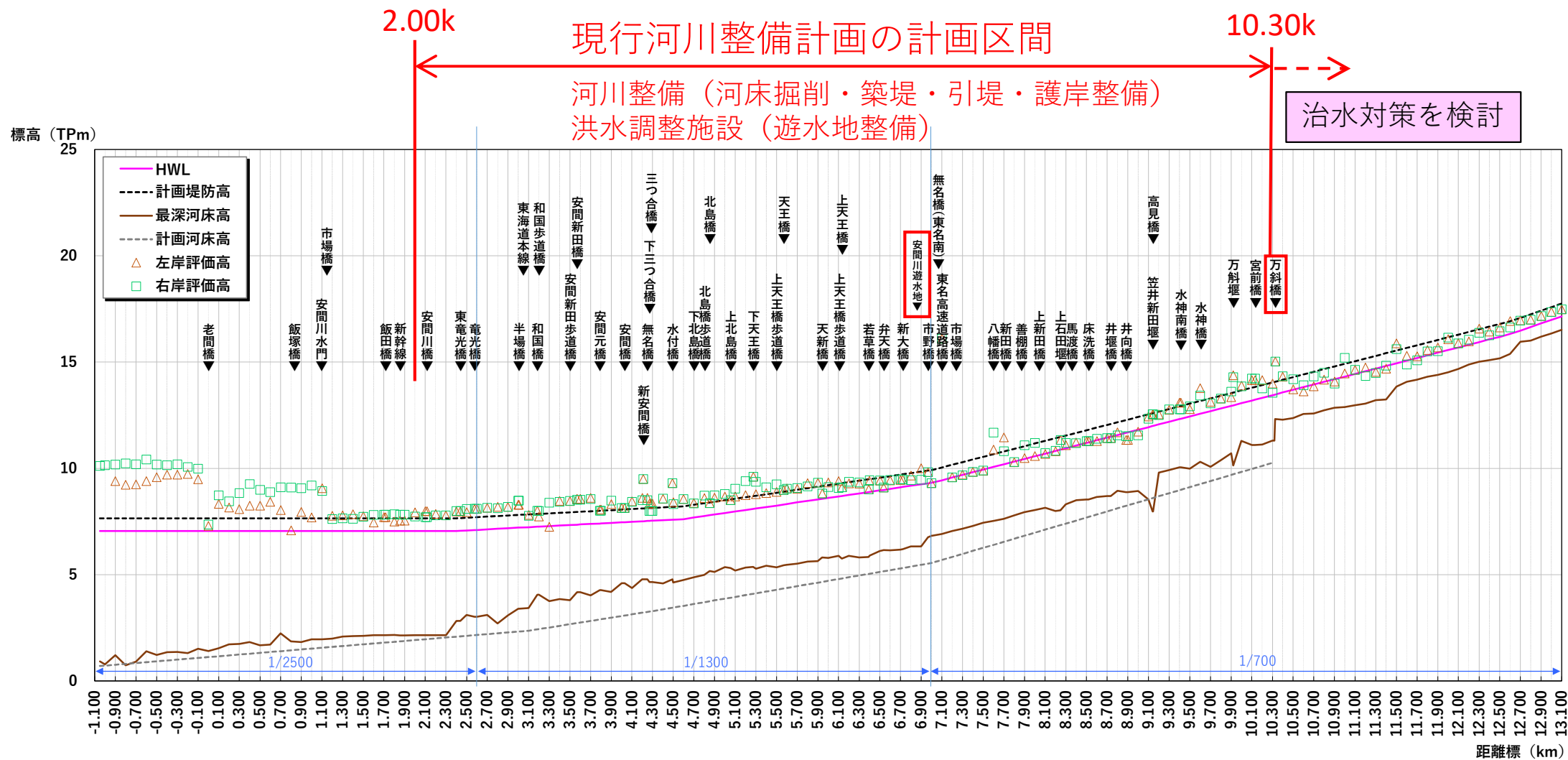
- 安間川の浸水被害は、主に東名高速道路下流域の**長上地区**、東名高速道路上流域の**宮川排水路周辺**と浜松環状線上流域の**笠井・寺島地区**を中心に発生しており、これらの地区の浸水原因は、以下のことが複合的に関係している。
 - ✓ 浸水常襲地区の安間川の流下流下能力が低く、水位が上昇しやすい。
 - ✓ 安間川に流下する排水路では、河川水位が上昇すると排水が困難となる。
 - ✓ 近年、農地の宅地化等により、保水機能が低下し、雨水の流出量が増加している。



4. 河川整備計画（変更）の方向性

4-1 河川整備計画（変更）の方向性

- 現行の河川整備計画区間（2.00k～10.30k区間）については、「河川整備」及び「安間川遊水地（市野地先）」が位置付けられており、引き続き整備を実施していく。
- 10.30kから上流区間については、河川整備の計画区間を延伸し、下流整備と並行して実施可能な治水対策を検討する。



4. 河川整備計画（変更）の方向性

16

4-2 現行河川整備計画の実施内容

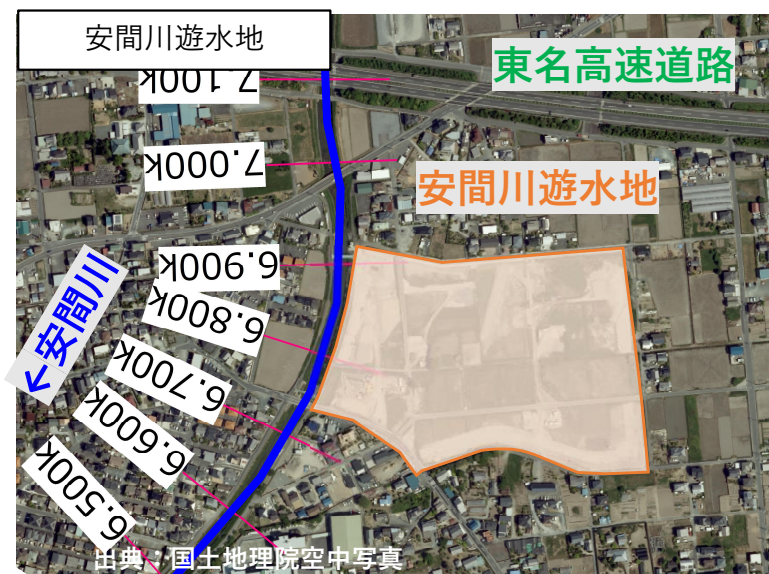
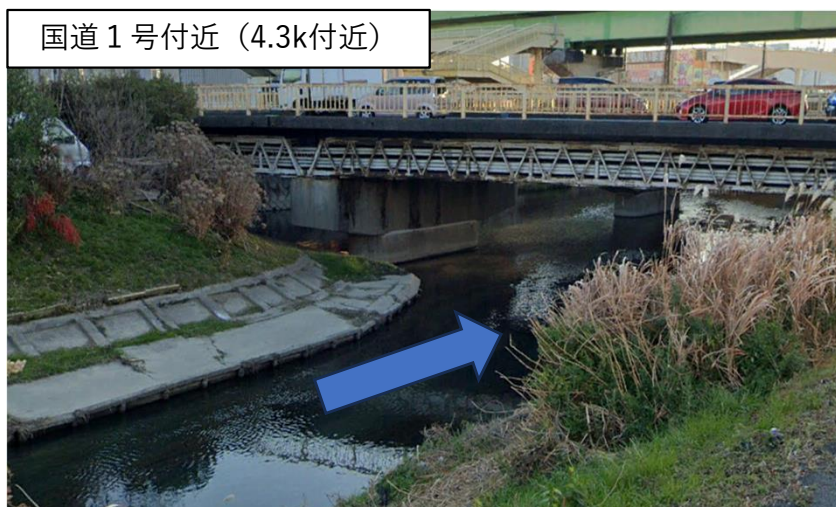
- 現行整備計画の治水対策は、**河道整備**、**洪水調節施設**である。

【河道整備】

- 東海道新幹線上流（2.00k）から万斛橋下流（10.30k）の区間について、河床掘削・築堤・引堤・護岸整備を実施する。
 - ✓ 国道1号や東海道本線などの橋梁を架け替えない方針で河道断面を設定。
 - ✓ 計画河床については、合流先の天竜川の計画河床と整合を図る。

【洪水調節施設】

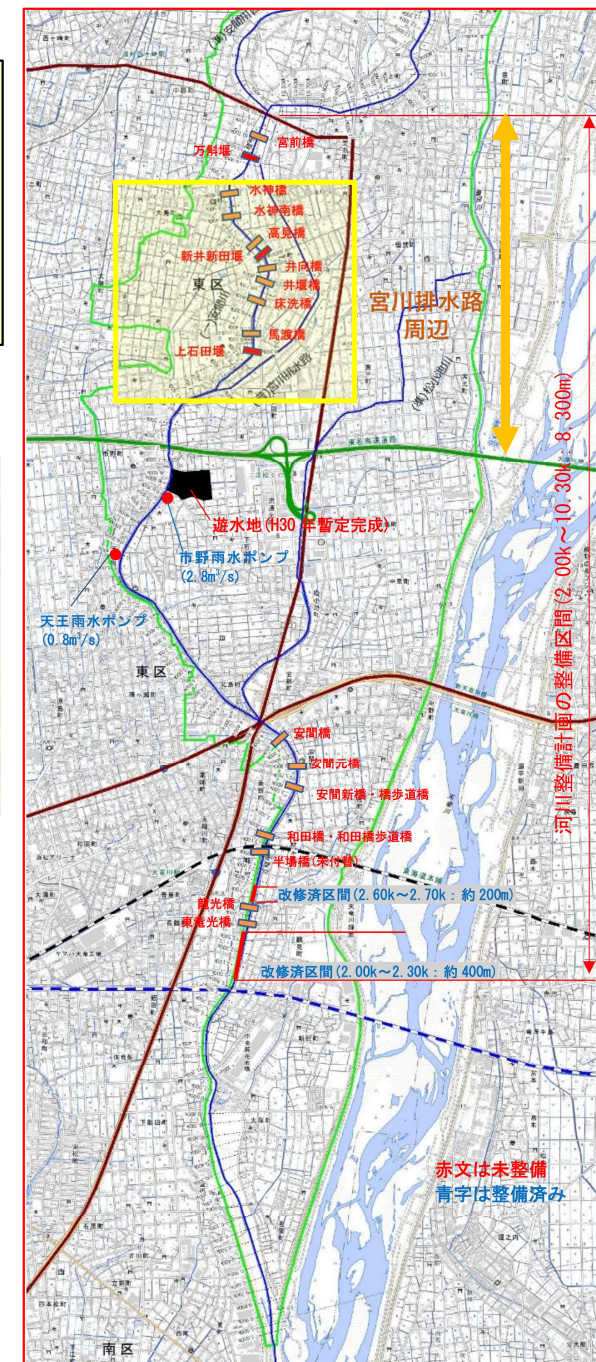
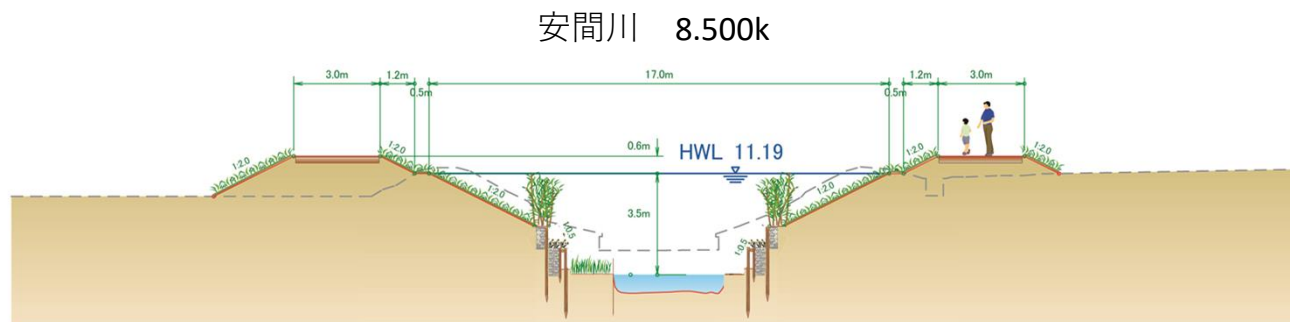
- 洪水の時に一時的に水を貯め、下流の河道に流れる流量を減少させるため、安間川遊水地を整備する。
 - ✓ 河道整備で設定した河道断面の限界流量まで洪水を調節する。



4. 河川整備計画（変更）の方向性

4-4 現行計画における宮川排水路周辺の治水対策内容

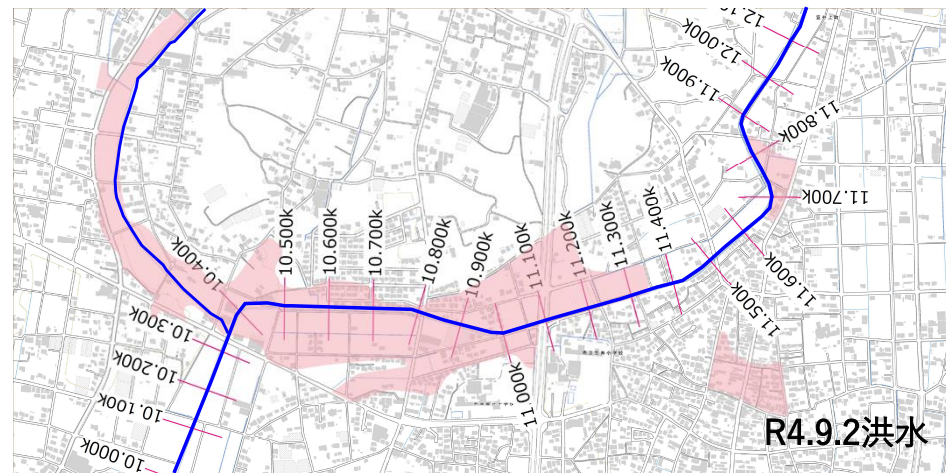
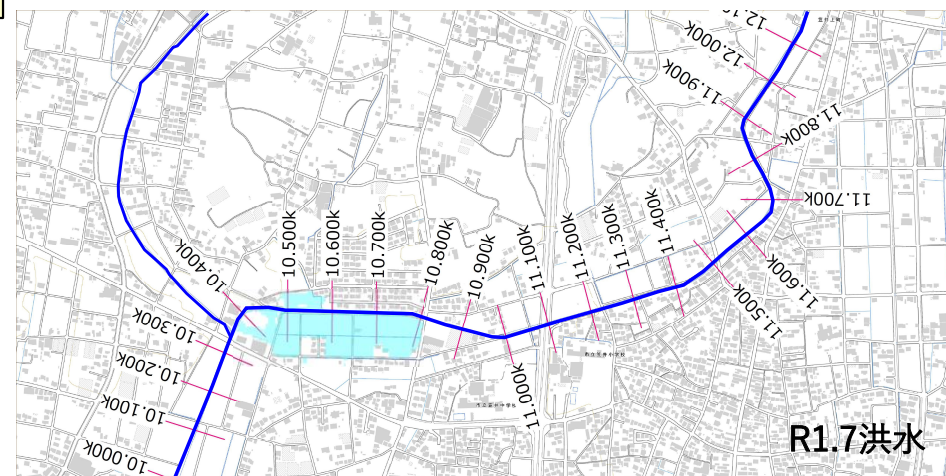
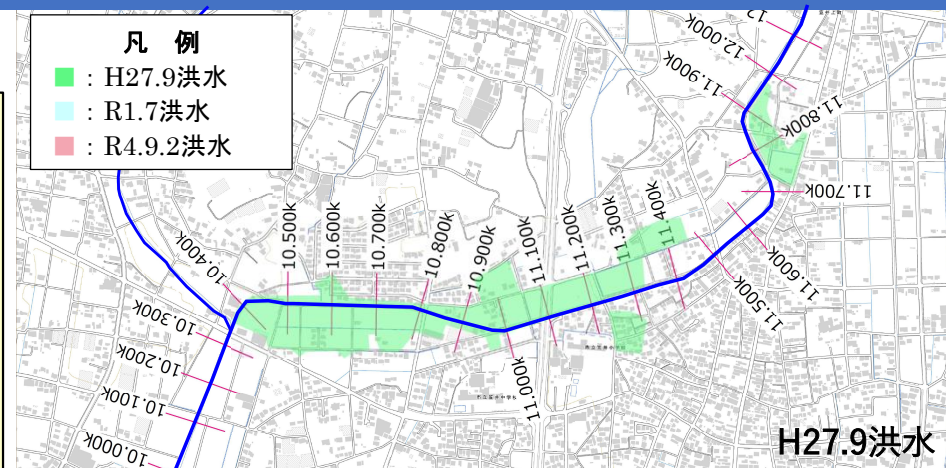
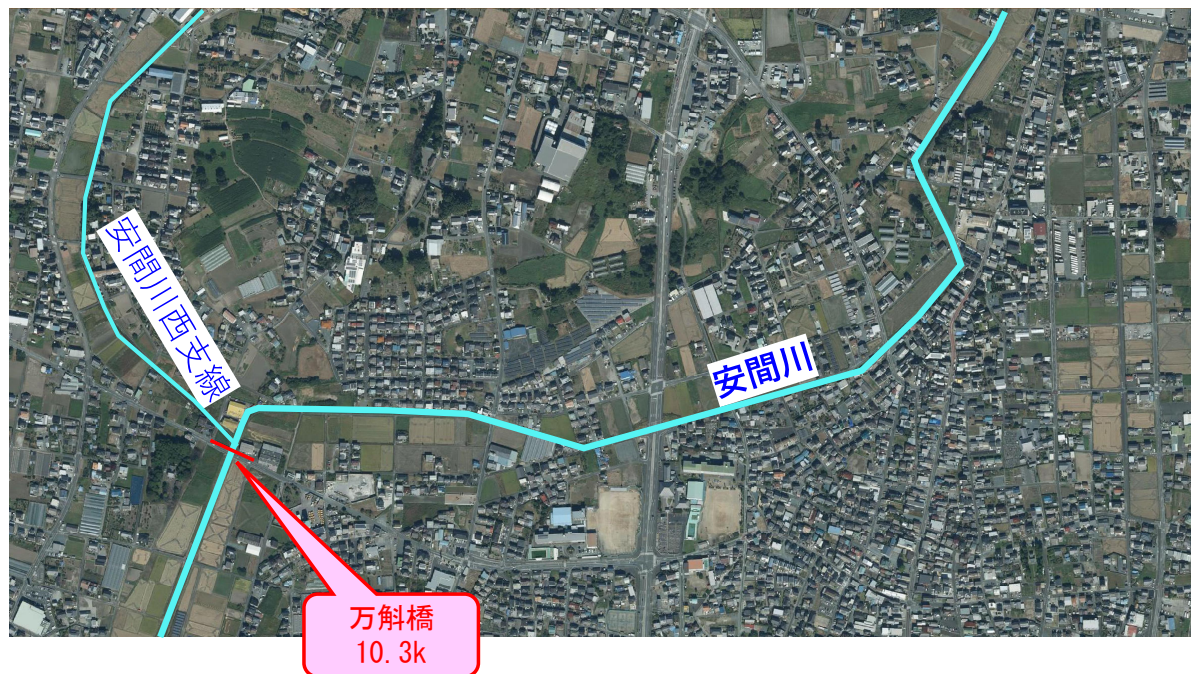
- 河道改修 延長：7.0k～10.3k
工種：河床掘削・築堤・引堤・護岸整備
- 橋梁架替：8 橋
- 堰の撤去：3 箇所



4. 河川整備計画（変更）の方向性

4-5 笠井・寺島地区(万斛橋上流)周辺の現状

- ・ 現行整備計画における工事区間は、2.0k～10.3k(万斛橋下流)となっている。
- ・ 近年の実績浸水範囲を確認すると、万斛橋上流の区間において、頻繁に浸水が確認されている。
- ・ 変更する整備計画においては、これらの万斛橋上流における浸水被害の軽減を目的とした治水対策を検討する。



4. 河川整備計画（変更）の方向性

4-6 万斛橋上流における洪水調節の考え方（遊水地）

- 洪水調節施設の1つ目の案として、遊水地の整備を検討した。
- 万斛橋上流の遊水地については、浸水常襲地区の周辺で洪水調節効果の高いと考えられる箇所の地形や宅地利用の状況等を考慮し決定していく。
- なお、現在整備した安間川遊水地（市野地先）については、浸水被害常襲地区の上流で市街化調整区域、かつ、地盤高が低く流水が停滞しやすい箇所等を理由に位置を選定している。

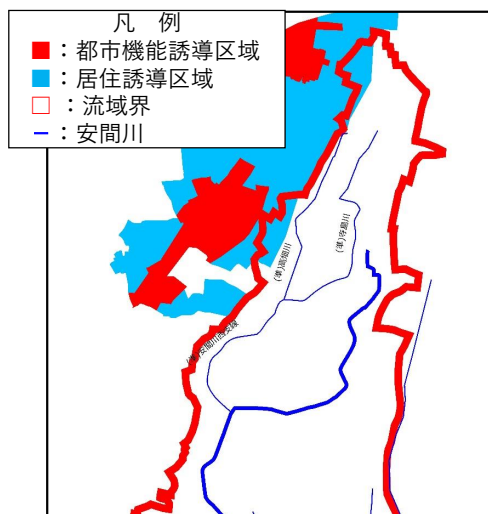
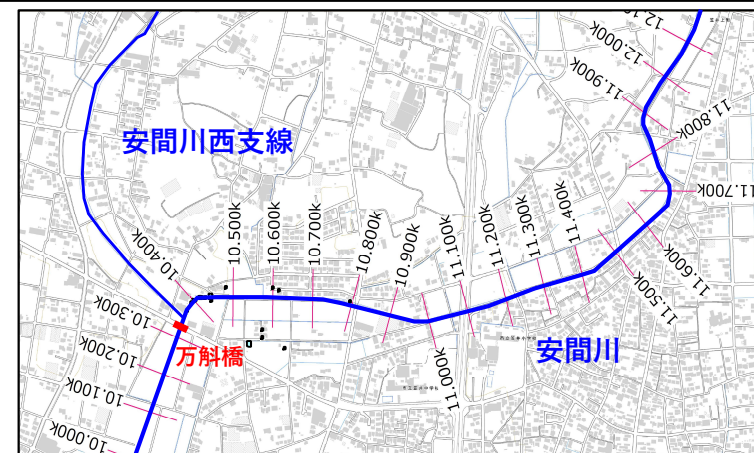
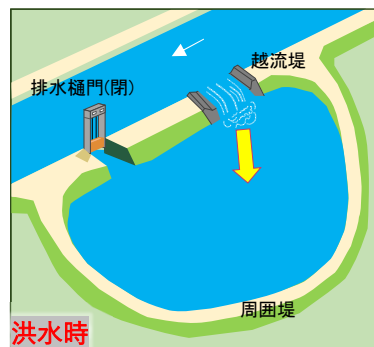
遊水地の機能

洪水時

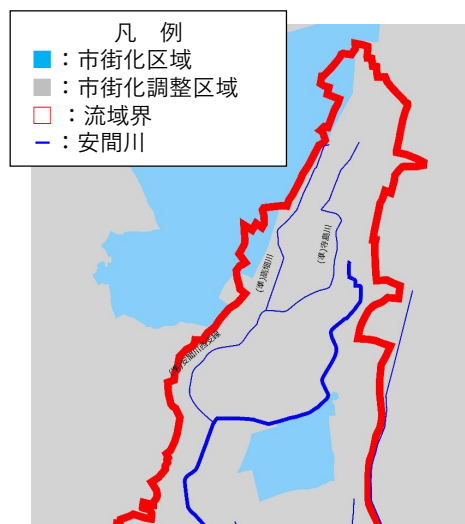
越流堤から取水し、調節池内に貯留することで、増水時の河川水位の低減を図る。

水位低下後

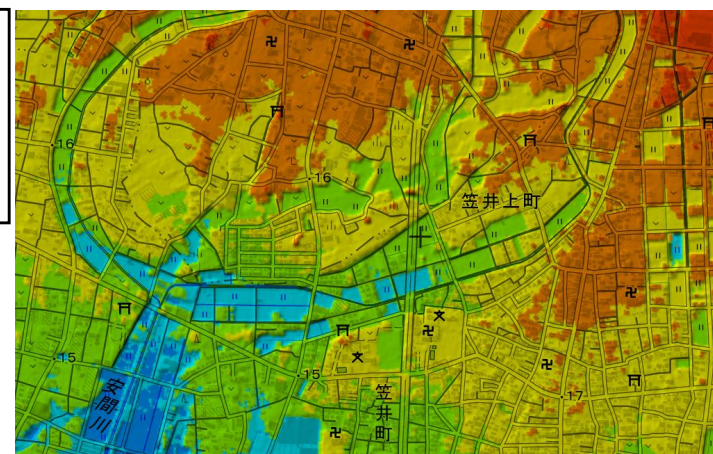
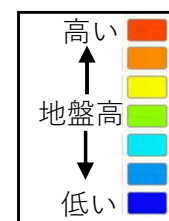
調節池内に貯留した水を、排水樋門から排水する。



立地適正化計画



市街化区域・調整区域



標高図（出典：国土地理院地図）

4. 河川整備計画（変更）の方向性

21

4-7 万斛橋上流における洪水調節の考え方（放水路）

- 洪水調節施設の2つ目の案として、放水路の整備を検討した。放水路設定の考え方は以下のとおりとした。
 - 放水路ルート：宅地利用の状況を踏まえ地下放水路とし、天竜川へ放水することを想定
 - 処理方式：放水路内は自然流下による放流を想定
 - 放水路幅：放水路が道路下となることを想定し、2車線でのおよそその道路幅(10m程度)
 - 呑口敷高：接続箇所における計画河床高



放水路ルートイメージ

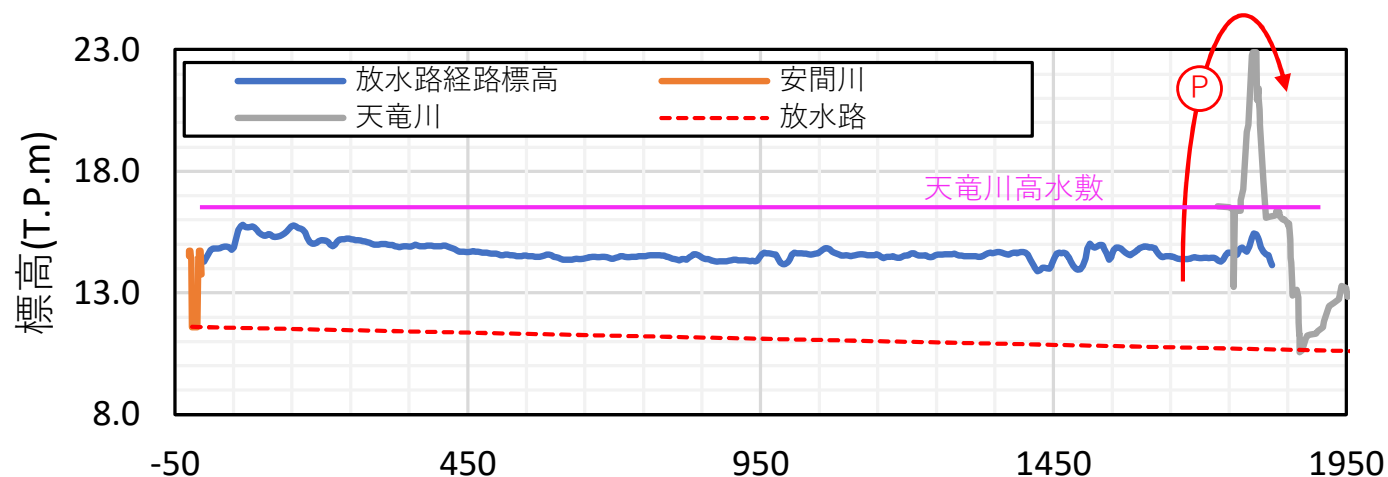


放水路分水工のイメージ

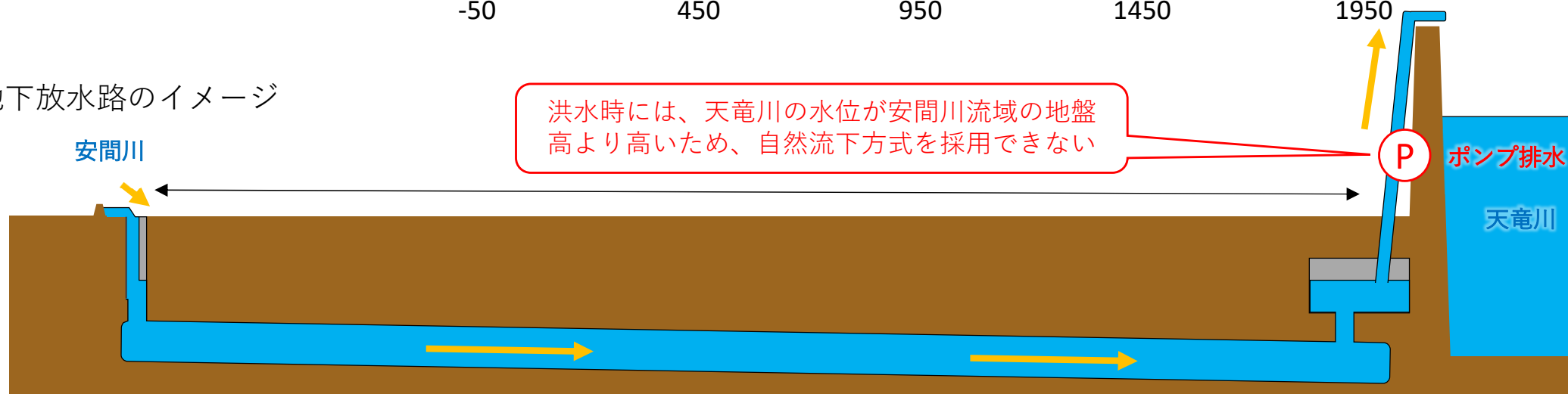
出典：国交省 琵琶湖淀川河川事務所 大津放水路建設事業パンフレット

4-8 万斛橋上流における洪水調節の考え方（放水路）

- 放水路は前述の通り道路下を想定している。
- このとき、排水先は天竜川を想定しているが、洪水時の天竜川の水位が安間川や安間川流域の地盤高より高くなるため、ポンプ排水する必要がある。
(自然排水とした場合、天竜川へ排水できない・逆流する等が考えられるため)
- 放水路整備においては、地下放水路を想定しているため整備に伴い地盤沈下や振動等が発生する可能性があることやポンプ排水を想定していることから操作の確実性などが課題として挙げられる。



地下放水路のイメージ



4-9 洪水調整施設の比較表

- 2案を比較した結果、経済性や操作の確実性の観点では、遊水地案が優位である。
- 上流区間の対策については、引き続き検討していく。

	遊水地案	放水路案
概要	洪水時に河川の水を一時的に貯留し、下流への流量を減らすことで洪水被害を軽減させる	洪水時に河川の水を地下放水路に流下させ、下流への流量を減らすことで洪水被害を軽減させる
社会的影響	放水路案と比較し、施工範囲が大規模であり、用地補償の範囲は大きくなる	遊水地案と比較し、地表面での施工範囲は小規模となり、用地補償の範囲は小さくなる ただし、放水路は、地下トンネル方式として道路下を想定しており、地下埋設物へ影響する可能性がある
周辺への影響	遊水地を施工することにより、施工箇所周辺の地下水流動の対策が必要になる可能性がある	地下10m以上の深さに構造物を整備するため、地盤沈下や振動等、周辺への影響が懸念される
経済性	放水路案と比較し、建設費・維持管理費が小さい	遊水地案と比較し、建設費・維持管理費が大きい（排水ポンプ施設や放水路の維持が必要となる）
操作の確実性	操作は不要	排水ポンプ等の操作が必要 （機器の不具合が発生した際に確実な操作が実施できない可能性がある。）

5. 今後の予定

24

令和6年度

○第1回流域委員会（令和7年3月6日）

提示

河川及び流域の現状と課題

意見

令和7年度

○第2回流域委員会（令和7年12月18日）

提示

河川及び流域の現状と課題（環境）

意見

○県庁内関係部局事前協議

河川整備計画（変更）の方向性

令和8年度

○第3回流域委員会

提示

河川整備の目標・実施に関する事項

意見

○県民意見募集（パブリックコメント）

河川整備計画（変更）（原案）

○第4回流域委員会

提示

河川整備計画（変更）（修正原案）

意見

○県庁内関係部局協議

意見

○浜松市長への意見聴取

河川整備計画（変更）（案）

○認可申請（国土交通省）

河川整備計画（変更）の策定・公表